

淋証の漢方治療：五淋散とその周辺

桜十字福岡病院

木村 豪雄

淋証とは尿意が頻数となり、排尿痛や残尿感を訴え、尿は混濁し膿尿や血尿などを交えるなどの症状を指しており、必ずしもgonorrhoeaではない。現代医学的には、膀胱炎・尿道炎・尿路結石症・腎膀胱結核および腫瘍、前立腺炎ならびに肥大症、膀胱神経症、神経性頻尿なども包括される。古典的には淋証は熱・気・老・暑・石淋の五つに分類されるが、膀胱炎や尿道炎などの下部尿路の炎症は熱淋に相似する。気淋は神経性・精神性の頻尿や排尿困難、老淋は高齢者の排尿困難、暑淋は夏季に発汗過多や脱水により尿が濃縮されるための排尿困難、そして石淋は結石症によるものである。

1. 急性炎症

下部尿路の急性炎症には抗生物質が非常に有効であり、漢方方剤単独で治療することはない。しかし漢方方剤を併用すると対症療法としてたいへん有用である。下部尿路の炎症に対する漢方方剤には、抗炎症作用、利尿作用（尿量を増加し浸透圧を低下させ炎症粘膜の刺激を減少させる）、鎮痙作用（膀胱の緊張、括約筋の痙攣を緩和させる）および止血作用をもつ生薬が配合される。とくに下部尿路の消炎の主薬は山梔子である。代表的な処方には五淋散、竜胆瀉肝湯、八正飲などがある。

五淋散は、消炎・利尿・鎮痙・止血作用をもつ生薬がバランスよく配合されており、下部尿路感染症に対して第一選択となる漢方方剤である。軽症の膀胱炎や尿道炎もしくは再発を繰り返す慢性炎症に応用できる。もちろん急性炎症には抗生剤を併用する。猪苓湯は本来、麻疹のような湿熱の下痢に用いられる方剤であり、尿路感染症には力不足である。しかし排尿困難・排尿痛（灼熱感・不快感）などの自覚症状の軽減と血尿を止める点は優れている。

一般に膀胱炎、尿道炎には五淋散エキスを中心にして、炎症の強いときは黄連解毒湯、竜胆瀉肝湯エキスを併用する。また頻尿・排尿痛に対しては芍薬甘草湯エキスを加える。尿の濃いときには猪苓湯エキスを併用する。血尿には四物湯もしくは温清飲エキスを併用するとよい。

2. 慢性炎症

慢性および再発を繰り返す膀胱炎などには漢方が役に立つ。慢性化の要因には、①虚証、②瘀血、③解毒体質（一貫堂）が考えられる。虚証は体力が低下して治癒力の乏しいものであり、補剤である六君子湯や補中益気湯を五淋散に併用する。炎症の遷延化、増殖性炎症および癒着・瘢痕化も瘀血として捉える。その場合、桂枝茯苓丸、大黄牡丹皮湯、通導散などを併用する。解毒体質とは、炎症を起こしやすく、そして慢性化しやすい体質を意味する。柴胡清肝湯、荊芥連翹湯、竜胆瀉肝湯を併用する。